

JBL4350A 奮闘記(10)

—録音機の進展—

1. 始めに

前報(9)に引き続き、各種音源を録音再生する機器について報告いたします。

2. 録音機

録音と言えばテープ録音しかなかった時代では、オープンリールデッキやカセットデッキで FM 放送を録音することが唯一の楽しみでした。型番については記憶がありませんが、オープンリールデッキはTEAC製、カセットデッキはTEAC製や POINEER 製のものを使用していました。カセットデッキにはマイクミキシング機能がありますので、レコーデッドテープを再生しながら、カラオケに使うということもやりましたが、モニタースピーカーの JBL4350A から流れてくる悪声に我ながら辟易したものです。

そして時代は変わり、カセットもウォークマンから MD ウォークマンに代わり、オーディオ用には KENWOOD の DM-9090 (写真) を導入し、借りてきた CD や CS-PCM から MD に録音して楽しんでいました。



さらに時代は代わってデジタルレコーダーが手軽に利用できるようになりましたので、まずは携帯デジタル録音機の DR-100 (写真) を導入しました。



このものは 96KHz, 24bit WAV のフォーマットで録音できますので、CD やブルーレイレコーダーの BS 録画を WAV に落として PC オーディオの音源としたり、iPod やスマートフォンで聴くようにしたりして多彩な楽しみ方ができるようになりました。

これらの経過はオーディオ実験室のデジタルレコーダーの DR-100 のページに一連の携帯録音機のオーディオへの活用として報告しています。

近年、DSD がオーディオ誌上を賑わせるようになり、昨年から DSD の検討を始めました。既に DSD を始められていた先輩方に教を乞いたり、メーカーのデモに参加したりして情報を得るようにしましたが、DSD 音源そのものが十分に供給されていない現状が分かりましたので、いっそのこと DSD フォーマットで録音できるものとして KORG の MR2000sBK (写真) の導入を決めました。これらの経過はオーディオ実験室のデジタルレコーダーの一連の DSD 事始め顛末記と一連の MR2000sBK の使いこなしに報告しています。



さらに TASCAM の DA-3000 (写真) が発売されることを知り、メーカーの試聴会に参加した後、導入を決めました。これらの経過はオーディオ実験室のデジタルレコーダーの一連の DA-3000 による DSD 研究と一連の DA-3000 の活用のレポートに報告しています。



なお、アナログや BS 録画から DSD 録音したり、ダウンロードした DSD 音源を楽しむことは当然のことですが、録音を行わずモニター音を聴くだけで DSD の音を楽しむことも常態化しています。

この他、DAT の活用については録音はしていませんが、オーディオ仲間の SONY TCD-D100 (写真右：本体、左上：デジタル I/O 部) による生録音源を PC に取り込むことを実施しました。これらの経過は、オーディオ実験室の PC オーディオの Sound Blaster Digital Music SX のページに一連の Sound Blaster による DAT 音源取り込みに報告しています。



ブルーレイレコーダーの PANASONIC の Diga BW-830、Diga BZT-910Diga および BZT-9000 については前報の JBL4350A 奮闘記(8)で述べましたので割愛します。

マイク録音については前述の DR-100 の内蔵マイクも使えますが、外付けマイクの SONY ECM-22P (写真) と MXL 2003 (写真) およびマイクプリアンプの dbx 386 を借用して DSD 録音を実施しました。



これらの経過はオーディオ実験室のデジタルレコーダーのページに一連のマイク録音の活用として報告しています。また、マイク録音をルームチューニングに活用した事例をオーディオ実験室のルームチューニングのルームチューニング顛末記に報告しています。機会があれば、これらを使って DSD の生録に挑戦してみたいものです。

3. まとめ

テープ録音から MD を経てデジタルレコーダーによる PCM や DSD 録音まで進んできましたが、現在のところ DSD のアナログ的な良さにメリットを見出し、さらに向上を目指しているところです。

以上